

部 長 佐野 吾朗
研究主任 松本 純
部 員 数 11名

1 研究主題

自ら進路選択のできる生徒の育成をめざす進路指導
ー進路選択に役立つ進路学習を通してー

2 はじめに

生徒の進路をめぐる環境や意識は大きく変化している。中学校における進路指導もその変化に対応することが強く望まれている。「働くこと」「学ぶこと」は、中学校3年間における進路指導の大きなテーマである。現在の自己を見つめ、将来の自分を思い描いて努力することは、生き方指導の面から重要な課題となっている。小牧市進路指導教育研究会では、この「自ら進路選択のできる生徒の育成をめざして」の大テーマのもと、数年間にわたり研究を続けている。

生徒個々の将来の夢が単に夢で終わらないように、より支援できる進路情報のあり方を求めていきたいと考え、研究を継続していきたい。

3 研究のねらい

現在、高等学校や専修学校の教育方針、学科、コースなどが多様化し、生徒が進路選択する上での幅が広がっている。しかし、たくさんある選択肢の中からそれらを吟味し、適切に選択することができない生徒がいるのも現状である。また、自分の将来について具体的に考えられない生徒も多く、体験入学や学校見学に参加の意欲を示さない生徒もいる。

そこで、多くの進路情報を生徒が得る中で、生徒自身が「行きたい」と主体的に考えて進路選択をするための進路情報のあり方と、それをいかにタイムリーに提供するか手立てを検討したいと考えた。さらに進路指導を通して、困難に屈することなく立ち向かうことができ、心豊かな素敵な大人になってほしいと願った。

生徒への進路情報の提供方法として、進路説明会、体験入学、各種資料の配付などをこれまで行ってきた。各校で行われている進路行事の持ち方や、各学年での進路学習等について検討することを通して、生徒が進路選択する上で、より有効な手立てを考察したいと考え、研究に取り組んだ。

4 実践と考察

(1) 各種進路学習等の資料の収集と協議

小牧市内各校で行われている進路行事や進路学習等の資料を持ち寄り、情報交換と協議を行った。進路説明会の持ち方に関する資料、1年間の進路の流れを見通すための資料など、主に進学に関する資料だけでなく、1年生から3年

生までの進路学習の積み上げについての報告など、系統的な進路学習に関する報告もなされた。

各校の情報を共有することにより、初めて進路指導主事を経験する教員だけでなく、進路指導主事を経験したことがある教員についても、今後の進路指導につなげていく貴重なヒントを得ることができた。

(2)総合的な学習の時間 職業人体験学習を通して

A中学校では、生徒が目的をもって主体的に進路選択ができるようにするために、系統的な進路学習が必要であると考え、以下のように取り組んだ。

1年生	2学期	ヒーロー&ヒロインの生き方調べ
	3学期	10年後の自分を想像してみよう
2年生	11月	職業人電話インタビュー
	1月	職業体験講座
	2月	キャリアプランニングをしてみよう
3年生	4月	興味ある職業をシミュレーションしよう
	5月	経済から10年後の生活をシミュレーションしよう
	7月～	上級学校体験入学など

このように1年時から「あこがれの人」の生き方調べなどを行い、職業人体験につながるよう計画した。職業人体験はコロナ禍で実施することができず、代わりに電話インタビューと体験講座を行った。

電話インタビューでは、事業所の方からも感心される質問を多く行うことができた。対応していただいた方からは、今後につながるアドバイスを多くしていただき、生徒たちにとっても多くの学びが生まれた時間になった。

体験講座では、中学校に複数の事業所から講師を招いて、幼稚園で実際に行う手遊びや読み聞かせ、消防署で行う患者の搬送や消火器訓練、応急手当の仕方、衣料量販店での服のコーディネートに関するパーソナルカラー診断など、生徒は様々な体験から学ぶことができた。また、事業所によっては質問を受けてくれる所もあり、体験したからこそ生まれた疑問などを質問し、答えてもらう機会もあった。

また、コロナ禍で職業人体験などが行えなかった前年度は、3年生最初の進路希望調査において、将来は「未定」や「収入のよい職」など、自分の将来についてあまり考えられていない生徒が全体の30%もいたのに対し、体験講座などを行うことができた今年度は15%にまで減った。

5 実践を振り返って

職業人体験学習が単発にならないようA中学校では、1年時より身近な人の職業調べや電話のかけ方講座、マナー講座、働く大人へのインタビューなどを通して職業に関心を持たせる機会を設けている。また、職業人体験学習後もキャリアプランニングなどを通して、自らの将来について考えさせている。このように、具体的な進学先名をもとにした進路指導だけでなく、系統的な学習を通して、将来よりよい進路選択ができるよう生徒の育成を目指していきたい。